

「岐路に立つ木造伝統構法の再生に向けて

今、私たちは何をなすべきか？ - 熟練伝統技能者から学ぶ - 」

当会は 1998 年に発足以降、京町家をモデルに、「伝統構法の再生手法を熟練伝統技能者から学ぶ」という視点で、地域固有の木造伝統住文化・伝統構法を適切に評価し活かした新しい設計体系構築に向けた耐震・防火研究を、様々な分野の伝統技能者・研究者・建築実務者との協働方式で継続的に取り組んできました。

そして、現在、木造伝統構法は、日本の建築史上、重大な岐路に立っており、各所でさまざまな再生に向けた取り組みが展開されています。今回は、その中で、平成 20 年度から国が取り組んでいる「伝統的木造軸組構法住宅の設計法の開発」事業が目指している内容をふまえて、伝統構法を長年にわたって支えてきた熟練伝統技能者の大工棟梁から「伝統構法を今後、適切に再生・継承・発展させていくための具体策」を提言いただいた上で、今、私たちがなすべきこと、中長期目標と私たちの役割について、伝統技能者・建築実務者・研究者等のさまざまな分野の方々と意見交換して方向づける予定です。お気軽にご参加下さい。

プログラム（開場 午後 2 時 45 分）

はじめに（15 時）

1. 国の「伝統的木造軸組構法住宅の設計法開発」の取組が指すもの（15 時 10 分）

国と「伝統的構法の設計法作成及び性能検証実験検討委員会」が指すビジョンを解説頂きます。

大江 忍（同委員会運営を担う国の補助事業者に採択された「NPO 法人緑の列島ネットワーク」理事長で、事業全体管理責任者。（有）ナチュラルパートナーズ代表）

2. 熟練伝統技能者の大工棟梁による、伝統構法再生に向けた提言（16 時）

伝統構法を支えてきた大工棟梁から伝統構法の本質を学び、再生に向けた提言を提示頂きます。

木下 孝一（数寄屋研究所心傳庵 大工棟梁。1931 年石川県能登生まれ。2007 年〔社〕日本建築学会文化賞受賞「現代的数寄屋建築の創作と伝統木造の防火・耐震性能の再評価に向けた民主体の取り組みを主導した功績」）

3.（意見交換）伝統構法の再生に向けて今、私たちは何をなすべきか（17 時～18 時 30 分）

地域性・多様性が大きく、性能的にも未解明な部分が多い伝統構法を適切に評価して継承・発展させるために、私たちが今、取り組むべきテーマと具体策、中長期的目標と私たちの役割を、伝統構法に従事している各地の大工棟梁・職方の方々、市民、設計者、施工者、耐震・防火・防災研究者、構造技術者等、さまざまな分野の方々と共にさまざまな視点から考え、方向づける予定です。

（参加予定者）

上記報告者、米田英三（米田工務店大工棟梁）、石田良雄（石田工務店大工棟梁）、佐藤嘉一郎（佐藤左官工業所）、吉村栄二（銘木問屋松文商店）、長谷見雄二（早稲田大学教授）、室崎益輝（関西学院大学教授）、田村佳英（悠計画研究所）他

会 場 西陣藁(ヒコバエ)ノ家 京都市上京区上立売通^{かみたちうりどおりじょうふくじ}浄福寺西入ル姥ヶ東西町 632

参加費 千円(意見交換の部:軽食付。会員 500 円、学生無料)。定員 50 名(申込先着順)

参加方法 参加希望の方は 7/23(金) までに、お名前、所属を明記の上、メールまたは F A X で下記までお申し込み下さい。

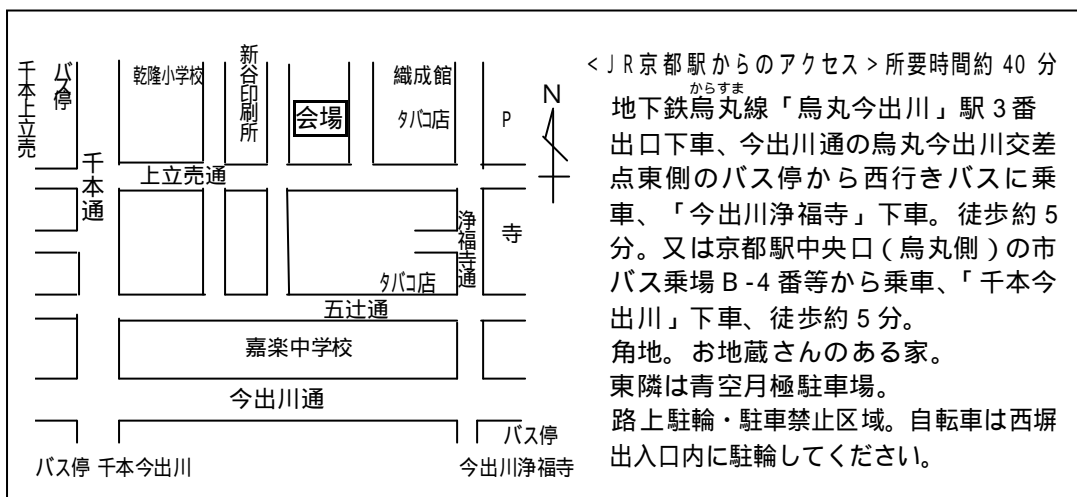
[お申込み時点で参加受理とさせていただきます、ご返事は省略させていただきます。](#)

参加申込先 関西木造住文化研究会(略称 KARTH:カース、住所は上記会場に同じ)

TEL 075-411-2730 悠計画研究所内、FAX 075-411-2725

E-mail: info@karth.sakura.ne.jp、<http://karth.blog13.fc2.com/>

会場案内図



木造伝統構法による改修の有効性を実験で検証して実現した防火・耐震改修モデル(日本初)西陣ヒコバエノ家

木造伝統構法の構造の基本的特徴

伝統構法とは、小屋組の合掌を例外として、柱と横架材(梁・桁・貫等)などの水平と垂直の木材の直線材で構造体をつくる軸組構法である。

原則として接合金物を使わずに、伝統的木組みによる半剛接の接合部で組み上げた「ラーメン構造」の軸組工法を基本とする。この構造体に土壁・板壁などのせん断抵抗型の要素を要所に挿入して躯体を固め、変形を抑える。応力を各所に分散しながら吸収する、変形能力の大きい、靱性の高い構造体である。柱・床束は、自然石の玉石・延べ石の上に直置きし、上部構造と基礎は固定しない。

地域性・多様性

建物用途や地域の気候風土・歴史文化、建設年代、職人、コスト等により多種多様な工法・材料が用いられており、かつ、自然材料の特性や施工方法等の差が建物の耐久性に与える影響が顕著である。

現代型軸組構法との違い

伝統構法の耐力架構は、「高剛性と高強度を専ら指向」する現代型軸組構法とは異なり、「靱性の確保を第一」に、そして可能な限り剛性と強度を高めるという技術観によって構築されてきている。

(平成 17 年 11 月 4 日、国土交通省「伝統的な木造軸組工法に関する意見交換会第一回」提出資料より)

関西木造住文化研究会とは

Kansai Association for the Research in Traditional Housings

当会は、1998年に発足以降、各地の熟練伝統技能者、建築・防災研究者、建築実務者等の協働研究により、各種実験等を通して、木造伝統住文化・伝統構法の今後の都市への再生の意義と再生の可能性、具体的な再生・継承・発展手法等を総合的・工学的・体系的に研究・検証し、京町家をモデルとした研究成果を指針・マニュアルとして整備して、「各地の地域固有の木造伝統住文化と暮らしと安全性が両立した住まい・まちづくり」を実現するための普及啓発活動に継続的に取り組んでいます。

<チーム構成> 耐震研究チーム、防火マニュアル作成チーム、被災指針作成チーム、防災情報普及チーム

これまでの主な活動の例

未解明部分の多い伝統構法の性能のうち、最も重要な耐震・防火性能の実態に即した適切な評価手法を体系的に確立するための研究開発に取り組んでいます。

熟練伝統技能者の技と知恵を学び科学的に解明することを基盤とし、モデルとして、京町家の防災性能を実証的視点から見直し、木造伝統住文化・伝統構法の特性を活かして現代の各種工法に勝るとも劣らない耐震・防火性能を伝統的工法で達成できるようにするための研究を積み重ねてきました。

(1) 再生町家の部材実験による、伝統木造建築で高度な耐震・防火性能を達成できることの検証

幕末創建の町家を再生した「西陣薬(ビルI)ノ家」の耐震・防火性能実験(2000年、日本初)により、京町家の伝統的工法で建築基準法を遥かに超える耐震・防火性能を達成できることを検証し、その後、国レベルで伝統木造の性能が見直されるきっかけを作りました。

(2) 京町家の外壁等の建築基準法令適合仕様の研究開発

法令に合わないとされてきた京町家の伝統仕様の外壁等の防火性能が早稲田大学長谷見研究室、当会、京都府建築工業協同組合等により組織的に研究され、同成果は2004年国土交通省告示にも影響を与え、寺社も含め、土壁や化粧軒裏の伝統仕様を市街地で新築・再生できるようになりました。

(3) 京町家の防災改修マニュアルの整備と普及啓発

京町家をモデルとした豊富な実験・調査をもとに、木造伝統文化を活かした災害に強い住まい・まちづくりのための各種耐震・防火改修マニュアルを整備し、研究成果の各地での市民向け、建築実務者向けの普及啓発活動に取り組んできました。

(4) 地震被害を最小限に抑えるための被災地の建築修復情報支援

KARTHの主な協働研究例

* : 日本初



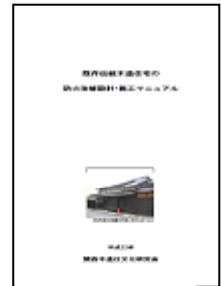
京都の伝統的軸組構法の木造土壁せん断耐力試験 (H12)



京都の伝統的軸組構法の木造土壁の火災安全性実験 * (H12)



住まい手向け伝統木造住宅の防火・耐震改修手引きリーフレット (H18) *



既存伝統木造住宅の防火改修設計・施工マニュアル及び、同マニュアル技術解説書の2種改訂版発行 (H22) *



耐震研究「構造総体としての耐震評価を取り入れた京町家改修指針作成に向けて」 (H20~) *



既存京町家振動実験 (H11~15)



土壁腰板張、妻壁裏返塗無し仕様の防火実験 (H14) *



せん断耐力実験 (H15)



防火・耐震調査 (H14~)